

東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2011

防衛省防衛研究所編

The National Institute for Defense Studies, Japan

はしがき

本書は、2010年1月から12月までを対象期間として、東アジアの国・地域別に1年間に生じた安全保障にかかわる主要な事象について分析し、また東アジア地域の安全保障を考える上で重要と思われる問題についても、2つの章を設けて分析している。

今回は、第1章で、グローバルな金融危機が国際安全保障に及ぼす影響について、米国や欧州諸国などの国防予算の状況、新興国が台頭する中での中国の国防費の状況などを分析した。第2章では、北極海が「開放された」海域になりつつあることを踏まえて、沿岸各国の当該水域に対する主権などの主張や、日本にとっての関心事項について分析した。国・地域別の各章では、軍事的に緊迫化する朝鮮半島情勢、韓国の対北朝鮮政策の変化、国力を増大させつつある中国の対米姿勢の変化、台湾・南シナ海・東シナ海などをめぐる状況や軍事的な動向、ASEAN 諸国の情勢やASEANの域内・域外関係の現状、メドヴェージェフ、プーチンのタンデム体制の下でのロシアの経済、外交の動向や軍事戦略・軍改革の進展、オバマ政権の下での米国のイラク・アフガニスタン政策の変化とQDRの内容、対東アジア政策における安全保障上の課題と対応、日本の民主党政権の下で策定された新しい防衛計画の大綱の内容などを分析している。

本書の執筆は、富川英生、秋本茂樹、橋本靖明、渡邊武、飯田将史、増田雅之、齊藤良、杉浦康之、庄司智孝、兵頭慎治、坂口賀朗、菊地茂雄、塚本勝也、新垣拓、高橋杉雄が担当した。また編集作業は、片山善雄、奥平穰治、河野桂子、鶴岡路人、福島康仁、佐竹知彦、石原雄介、大西健が担当した。

なお、本書は、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境について分析・記述したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。

平成23年(2011年)3月

防衛研究所 研究部上席研究官
編集長 坂口賀朗